

子どもたちに夢を! 子どもたちに笑顔を!



FC岐阜は子どもを虐待から守る「ぎふオレンジリボン運動」を応援しています。

活動主旨

岐阜県では、「児童虐待防止推進月間」である11月を中心として、児童虐待防止のシンボルであるオレンジリボンを活用した啓発活動により、家族や学校、地域など社会全般にわたり児童虐待問題に対する深い関心と理解を醸成することを目的に「ぎふオレンジリボン運動」を展開しています。

ぎふオレンジリボンサッカーボール

オレンジリボンとFC岐阜がコラボした「ぎふオレンジリボンサッカーボール」。
県内全42市町村に贈呈し、「子どもたちに夢を! 子どもたちに笑顔を!」という思いをもって「ぎふオレンジリボン運動」の推進を呼びかけます。また、県内の児童養護施設にプレゼントするとともに、FC岐阜のサッカー教室など地域貢献活動でも活用します。



DF
秋田 英義 選手
(あきた ひでよし)
「子どもたちに夢を!子どもたちに笑顔を!」という思いを込めて活動していきます!



MF
嶋田 正吾 選手
(しまだ しょうご)
様々な活動を通して子育ての楽しさ・素晴らしさを伝えたい!



MF
橋本 卓 選手
(はしもと たくる)
いつでもどこでも楽しく明るく親子の絆を深めましょう!

ロゴデザイン

岐阜の皆さんへ
こんにちは 日比野克彦です。
児童虐待は現代の社会機構が産み出したものではないでしょうか?
家長制度があった時代、地域では、子育ては家で、地域で行うものでした。

核家族化になり、自立する意識を社会が築き、個人が個性をもって生きて行くことが、現代の社会であるというように、急激に意識変化してきた日本において、現代の子育ての環境は果して進化した社会環境といえるのでしょうか?
児童虐待を問題視すると同時に日本全体の社会環境、家庭環境、教育環境を考えていかななくてはならないのだと思います。

そこで、FC岐阜の日比野克彦としてdeep-rooted social problem (根深い社会問題)の一つである児童虐待に関する防止活動のシンボルマーク「オレンジリボン」とその普及に取り組むFC岐阜とのコラボロゴをデザインをしました。

日比野克彦

【プロフィール】
アーティスト
日比野克彦(ひびの かつひこ)

1958年岐阜市生まれ、アーティスト。
東京芸術大学大学院修了。

1980年代に領域横断的で時代を反映した作風で注目を浴びる。
作品制作のみならず、パフォーマンスといった身体を媒体にした表現を行うなど、表現手段に束縛されずに自己の可能性を追求し続けている。
現在、東京芸術大学教授としても活躍している。

